

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 5年5月9日

事業所名 ぱびるすきっず

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		他部署より送迎人員確保するなど考慮している。	利用児童の多い時間帯は人員を配慮している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		どの遊具や物がどこに置かれているか、絵カード等で視覚化している。	利用児童に応じたその日の環境整備や、空間的配慮が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		朝・夕消毒を含めた清掃を徹底している。	換気や消毒・清掃を継続して行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に情報交換を行う。 個別支援計画の見直しにはモニタリングを実施している。	継続して取り組む。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげる	○		保護者との情報交換ソフト『HUG』にて日頃より情報交換を行い、意見・要望等を改善に活かしている。	利用者満足度アンケートを継続して行うことを、大きな改善目標に掲げている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所評価を行いホームページ上で公表している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者委員会の実施を検討。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修会を実施している。	今後も継続した情報交換の場を設ける。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		モニタリング・面接・HUGによる情報交換で実施している。	情報交換サイト(HUG)を有効的に活用して行く。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者が独自で受けられた発達検査結果を、了承を得て共有し、今後の療育支援に活かしている。	貴重な情報をスタッフ間で共有し改善に努めていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容	○		モニタリング・面接・HUGでの情報をもとに、児童発達支援計画を作成している。成長過程に応じた支援変更もしている。	児童発達支援計画の見直しも定期的に行っている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画の情報はスタッフ間で共有し、療育に活かしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		具体的なプログラム立案の確立は難しい。	個々の成長に応じたプログラムの継続に努めている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		スタッフ間で気づいたこと等話し合いの場を設けている。	様々な視点からの情報はとても貴重である。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		日時に応じて利用児童の活動レベルが異なる為、集団活動にはより配慮した療育が求められる。その点も含め前日のミーティングを大切にしている。	個別活動・集団活動それぞれの状況を踏まえて、児童発達支援計画に活かしている。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		業務日誌(連絡事項)で情報を、確認・共有している。	HUGや業務日誌を活用し、利用児童の情報収集に努めている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日頃からスタッフ同士が思いを言葉にできる、職場の雰囲気づくりに努めている。現在もそれは継続されている。	スタッフや保護者からの意見・要望等は再度みんなで話し合い改善してきている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		HUGに日々の活動記録を丁寧に入力している。	活動記録はスタッフ間で共有し、今後の療育支援に活かしている。
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度程度の児童発達支援計画の見直しに努めている。	保護者からの声を大切に、支援計画へと活かしている。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者や役職者を交えて、行っている。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		虐待の疑いのある場合は、関係機関に連絡することとしている。	必要に応じて関係機関と連携し、情報共有を行っている
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			対応児童のご利用はなし。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			対応児童のご利用はなし。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて様子を伝えたり、要望があれば活動報告書を作成している。	必要に応じて関係機関と連携し、情報共有を行っている
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて様子を伝えたり、要望があれば活動報告書を作成している。	必要に応じて関係機関と連携し、情報共有を行っている
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ご利用児童の保護者より、子育ての相談があった際、保護者の了承お得た上で、児童発達支援センターに助言を求めている。	今後も児童発達支援センターの助言や相談させて頂ける連携を築いて行きたい。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		利用児童の幼稚園とは情報交換を実施している。	必要に応じた対応に努めたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			必要に応じた対応に努めたい。
30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		HUGに日々の活動記録を丁寧に入力している。 都度保護者からの質問や要望にも丁寧に対応している。	HUGを今後も有効活用していく。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		モニタリング(面接)の中で、書籍や関連する事業所等の情報提案は行っている。	保護者全員に家族プログラムの支援は行き届いておらず、年間計画を決めて実施していきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に利用者負担について説明を行っている。	契約時の説明の継続、及びいつでも確認できるようにHUGにて掲示している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を	○		年度当初に説明し同意を得ている。変更があった際にも同意を得ている。	今後も年度当初や必要時の同意を継続する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に行われるモニタリングの中で、個別懇談・発達相談も実施している。またこちらからも情報発信に努めている。	今後も継続した情報交換の時間を設けていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	父母の会・保護者同士の会は実施されていない。実施を希望されない保護者の方の希望も踏まえて実施する。	医療機関や運動面・言語面の専門機関等当所を通じて情報交換を行っている。今後は保護者会を実施し、子育てにおける悩みや問題点などを話し合える場を設けていきたい。(個人情報留意)
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもや保護者の方が、安心して気軽にご相談して頂けるよう明確な情報と丁寧な対応を提供出来るよう心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HUGを主体に情報発信を継続している。	情報伝達の主たるHUGを有効活用している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		写真使用については保護者に契約の段階で同意を得ている。 同意書類作成の上、サインを頂き了承を得ている。	写真使用の同意を継続する。 保護者以外への送信は行っていない。
	39	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用児童の特性に応じたわかりやすい伝え方を配慮している。	利用児童の特性に応じた意思疎通の方法について、日々検討し合っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の夏祭りへの参加を検討。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルの策定を行っている。	マニュアルの適宜の見直しを行う。 定期的な訓練を計画的に行う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		不審者対応訓練の明確なマニュアル作成が必要。	引き続き計画的な各訓練を的確に行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		ご契約時のアセスメントで確認している。	アセスメントシートの情報はスタッフ間で共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーガイドラインを基に対応している。	医師の指示書に基づいて支援を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故報告書に記入。 記入された内容は共有し、周知徹底している。	事故報告書は毎日目を通すように心掛けている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会にて意見を出し合い、療育支援の見直しを行っている	今後も接遇チェックと研修会を継続していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		ご契約時に説明を行っている。	職員間で都度支援や方法を検討している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。